

**特別企画：国内主要 112 行の預金・貸出金等実態調査**

## 貸出金 12 兆 5761 億円増、105 行で増加 ～ 預金利息増、低金利で利ざやは 96 行で悪化～

### はじめに

近年、将来的な人口動態や地方創生の観点から地域金融機関を中心とする銀行の収益確保、店舗展開の動向が注目されるとともに、地方銀行を中心とした再編のニュースが続いている。そうしたなか、今年に入り日銀がマイナス金利導入を決定し、実体経済への資金供給を促しているが、イギリスの EU 離脱や三菱自動車工業の燃費不正問題など、企業の設備投資や事業展開に影響を与える大きな出来事が続いており、各銀行の貸出金、収益の動向にも注目が集まる。

帝国データバンクは、国内主要 112 行（大手銀行 7 行、地方銀行 64 行、第二地方銀行 41 行）の 2015 年 3 月末および 2016 年 3 月末時点の預金、貸出金の残高および 2015 年 3 月期、2016 年 3 月期の預金利息（支出）、貸出金利息（収入）の推移について調査・分析した。

※ 大手銀行 7 行＝三菱東京 UFJ、みずほ、三井住友、りそな、埼玉りそな、新生、あおぞら

※ 各数値は各行の決算短信（単体ベース）に記載されている数値（単位：百万円）を採用

### 調査結果

- 2016 年 3 月末の国内主要 112 行の預金は 687 兆 6083 億 3900 万円となり、2015 年 3 月末比で 29 兆 3758 億 5100 万円増加（4.5%増）。大手銀行、地方銀行、第二地方銀行の 3 業態すべてで増加し、112 行中 100 行（構成比 89.3%）で増加した
- 112 行の貸出金は 493 兆 6298 億 6300 万円となり、2015 年 3 月末比で 12 兆 5761 億 1000 万円増加（2.6%増）。3 業態すべてで増加し、112 行中 105 行（構成比 93.8%）で増加した
- 112 行の収支＜貸出金利息（収入）－預金利息（支出）の差額＝本業利ざや＞は、5 兆 6860 億 4400 万円となり、2015 年 3 月期比で 2181 億 1200 万円減少（3.7%減）。3 業態すべてで減少し、112 行中 96 行（構成比 85.7%）で減少した
- 地方銀行、第二地方銀行の計 105 行を対象とした地域別動向では、預金、貸出金ともに 9 地域すべてで増加。預金の増加率は「中国」（3.0%増）、貸出金の増加率は「九州」（4.9%増）が最大となった

## 1. 預金動向 ～29兆3758億円増、112行中100行で増加～

2016年3月末の国内主要112行の預金は687兆6083億3900万円となり、2015年3月末比で29兆3758億5100万円増加（4.5%増）した。大手銀行、地方銀行、第二地方銀行の3業態すべてで増加し、大手銀行（23兆3113億4200万円増、6.6%増）の増加率が目立ったほか、増減の内訳は、大手銀行（増加7行）、地方銀行（増加57行、減少7行）、第二地方銀行（増加36行、減少5行）となり、112行中100行（構成比89.3%）で増加した。

また、112行が2016年3月期（1年間）に預金者へ支払った預金利息は5759億6700万円となり、2015年3月期比で856億4500万円増加（17.5%増）。3業態すべてで預金が増加するなか、大手銀行（898億5200万円増、29.4%増）、地方銀行（7億5200万円増、0.6%増）は預金利息が増加したが、第二地方銀行（49億5900万円減、9.2%減）は減少した。

		2015年3月期	2016年3月期	2015年3月期比 増減額・増減比(%)		
主要112行	預金	658,232,488	687,608,339	29,375,851	4.5	
	預金利息	490,322	575,967	85,645	17.5	
	貸出金	481,053,753	493,629,863	12,576,110	2.6	
	貸出金利息	6,394,478	6,262,011	▲132,467	▲2.1	
	貸出金利息－預金利息	5,904,156	5,686,044	▲218,112	▲3.7	
	大手銀行 (7行)	預金	351,158,881	374,470,223	23,311,342	6.6
	預金利息	305,703	395,555	89,852	29.4	
	貸出金	254,137,656	258,617,791	4,480,135	1.8	
	貸出金利息	3,233,334	3,178,669	▲54,665	▲1.7	
	貸出金利息－預金利息	2,927,631	2,783,114	▲144,517	▲4.9	
	地方銀行 (64行)	預金	243,816,569	248,909,433	5,092,864	2.1
	預金利息	130,951	131,703	752	0.6	
	貸出金	179,416,595	185,799,156	6,382,561	3.6	
	貸出金利息	2,411,826	2,358,069	▲53,757	▲2.2	
	貸出金利息－預金利息	2,280,875	2,226,366	▲54,509	▲2.4	
	第二地方 銀行 (41行)	預金	63,257,038	64,228,683	971,645	1.5
預金利息	53,668	48,709	▲4,959	▲9.2		
貸出金	47,499,502	49,212,916	1,713,414	3.6		
貸出金利息	749,318	725,273	▲24,045	▲3.2		
貸出金利息－預金利息	695,650	676,564	▲19,086	▲2.7		

単位：百万円

## 2. 貸出金動向 ～12兆5761億円増、112行中105行で増加～

2016年3月末の112行の貸出金は493兆6298億6300万円となり、2015年3月末比で12兆5761億1000万円増加（2.6%増）した。3業態すべてで増加し、大手銀行（1.8%増）と比較して地方銀行、第二地方銀行（ともに3.6%増）の増加率が目立ったほか、増減の内訳は、大手銀行（増加5行、減少2行）、地方銀行（増加61行、減少3行）、第二地方銀行（増加39行、減少2行）となり、112行中105行（構成比93.8%）で増加した。

また、112行が2016年3月期（1年間）に融資先から受け取った貸出金利息は6兆2620億1100万円となり、2015年3月期比で1324億6700万円減少（2.1%減）。3業態すべてで貸出金が増加したものの、貸出金利息は3業態すべてで減少した。

### ～貸出金の増加率鈍化が顕著に～

2014年3月期以降の112行の預金、貸出金の増加率をみると、2014年3月期、2015年3月期は預金、貸出金ともに4%台の推移となっていた。しかし、2016年3月期の貸出金の増加率は2.6%と大幅にダウン。預金が増加し続けるなか、少子高齢化による企業数の減少もあり、融資先の発掘・選定に苦慮している様子が見えがえる。

	2014年3月期	2015年3月期	2016年3月期
預金	628,794,355	658,232,488	687,608,339
前年度末比増減率	4.2%	4.7%	4.5%
貸出金	459,777,675	481,053,753	493,629,863
前年度末比増減率	4.3%	4.6%	2.6%

単位：百万円

## 3. 利ざや動向 ～112行中96行で減少、2181億円減～

2016年3月期の112行の収支＜貸出金利息（収入）－預金利息（支出）の差額＝本業利ざや＞は、5兆6860億4400万円となり、2015年3月期比で2181億1200万円減少（3.7%減）した。3業態すべてで減少し、大手銀行（4.9%減）の減少率が目立ったほか、増減の内訳は、大手銀行（増加2行、減少5行）、地方銀行（増加7行、減少57行）、第二地方銀行（増加7行、減少34行）となり、112行中96行（構成比85.7%）で減少した。

## 4. 地域別動向 ～預金は「中国」、貸出金は「九州」の伸び率が最大～

地方銀行、第二地方銀行の計105行について本店所在地別（都道府県別）に9地域に分けてみると、2016年3月末の預金、貸出金ともに2015年3月末比で9地域すべてにおいて増加。預金の増加率は「中国」（3.0%増）が最大で「東北」（0.8%増）が最小。貸出金の増加率は「九州」（4.9%増）が最大で「北陸」（1.6%増）が最小となった。

預金利息は5地域（東北、中部、中国、四国、九州）で増加、4地域（北海道、関東、北陸、近畿）で減少と分かれたが、貸出金利息は9地域すべてで減少。利ざや（収支）は9地域すべてで減少し、「近畿」（4.3%減）や「北陸」（4.0%減）の減少率が目立った。

		2015年3月期	2016年3月期	2015年3月期比 増減額・増減比(%)		
地銀 第二地銀 (105行)	預金	307,073,607	313,138,116	6,064,509	2.0	
	預金利息	184,619	180,412	▲ 4,207	▲ 2.3	
	貸出金	226,916,097	235,012,072	8,095,975	3.6	
	貸出金利息	3,161,144	3,083,342	▲ 77,802	▲ 2.5	
	貸出金利息－預金利息	2,976,525	2,902,930	▲ 73,595	▲ 2.5	
	北海道 (2行)	預金	11,789,925	12,056,057	266,132	2.3
	預金利息	3,254	2,908	▲ 346	▲ 10.6	
	貸出金	8,750,173	9,013,984	263,811	3.0	
	貸出金利息	117,114	113,094	▲ 4,020	▲ 3.4	
	貸出金利息－預金利息	113,860	110,186	▲ 3,674	▲ 3.2	
東北 (15行)	預金	32,045,582	32,315,740	270,158	0.8	
預金利息	16,756	17,000	244	1.5		
貸出金	20,268,125	21,141,038	872,913	4.3		
貸出金利息	264,112	255,496	▲ 8,616	▲ 3.3		
貸出金利息－預金利息	247,356	238,496	▲ 8,860	▲ 3.6		
関東 (16行)	預金	67,396,383	69,214,884	1,818,501	2.7	
預金利息	36,301	33,094	▲ 3,207	▲ 8.8		
貸出金	52,387,904	54,218,566	1,830,662	3.5		
貸出金利息	724,374	702,085	▲ 22,289	▲ 3.1		
貸出金利息－預金利息	688,073	668,991	▲ 19,082	▲ 2.8		
北陸 (9行)	預金	20,733,743	20,957,222	223,479	1.1	
預金利息	8,511	8,141	▲ 370	▲ 4.3		
貸出金	14,932,693	15,172,708	240,015	1.6		
貸出金利息	192,475	184,824	▲ 7,651	▲ 4.0		
貸出金利息－預金利息	183,964	176,683	▲ 7,281	▲ 4.0		
中部 (16行)	預金	53,724,131	54,484,061	759,930	1.4	
預金利息	36,035	37,349	1,314	3.6		
貸出金	39,489,565	40,704,392	1,214,827	3.1		
貸出金利息	563,994	556,624	▲ 7,370	▲ 1.3		
貸出金利息－預金利息	527,959	519,275	▲ 8,684	▲ 1.6		
近畿 (9行)	預金	30,849,360	31,224,817	375,457	1.2	
預金利息	25,188	22,946	▲ 2,242	▲ 8.9		
貸出金	23,329,792	24,098,487	768,695	3.3		
貸出金利息	327,366	312,199	▲ 15,167	▲ 4.6		
貸出金利息－預金利息	302,178	289,253	▲ 12,925	▲ 4.3		
中国 (9行)	預金	27,215,836	28,032,145	816,309	3.0	
預金利息	20,489	20,737	248	1.2		
貸出金	19,391,605	20,260,246	868,641	4.5		
貸出金利息	256,793	252,165	▲ 4,628	▲ 1.8		
貸出金利息－預金利息	236,304	231,428	▲ 4,876	▲ 2.1		
四国 (8行)	預金	19,205,903	19,600,410	394,507	2.1	
預金利息	13,526	13,647	121	0.9		
貸出金	13,896,437	14,232,190	335,753	2.4		
貸出金利息	211,152	204,650	▲ 6,502	▲ 3.1		
貸出金利息－預金利息	197,626	191,003	▲ 6,623	▲ 3.4		
九州 (21行)	預金	44,112,744	45,252,780	1,140,036	2.6	
預金利息	24,559	24,590	31	0.1		
貸出金	34,469,803	36,170,461	1,700,658	4.9		
貸出金利息	503,764	502,205	▲ 1,559	▲ 0.3		
貸出金利息－預金利息	479,205	477,615	▲ 1,590	▲ 0.3		

単位：百万円

## まとめ マイナス金利、国内外情勢の影響は今期さらに顕著に

今回の調査で 2016 年 3 月末の預金が 2015 年 3 月末比で増加したのは 112 行中 100 行（構成比 89.3%）、貸出金が増加したのは 105 行（同 93.8%）となった。これらの数字だけを見ると銀行の経営環境は良好に映るが、2016 年 3 月期の預金利息増加率（2015 年 3 月期比 17.5%増）は預金増加率（同 4.5%増）を大幅に上回ったことに加え、金利低下傾向が続いていることで貸出金利息増加率（2015 年 3 月期比 2.1%減）が貸出金増加率（同 2.6%増）を大幅に下回り、利ざや（貸出金利息－預金利息）は、2015 年 3 月期比で 2181 億 1200 万円減少（3.7%減）。銀行の収益確保がより難しい状況となっている。

これまで、地方銀行をはじめとする地域金融機関については、少子高齢化を背景とした将来における人口動態に重点を置いた経営戦略が注目されてきたが、今年に入り日銀がマイナス金利導入を決定。設備投資、運転資金など銀行の資金を市場に供給させようとしているものの、近時では三菱自動車工業をはじめとする大手自動車関連企業の動向やイギリスの EU 離脱問題に伴う同国および欧州各国への進出企業、グループ企業および取引先の動向が注目されるなど、今後の国内外の経済情勢の変化を懸念し、設備投資や事業拡大の中止・見送りを決定する企業が増加することは否定できない。さらに、中小企業金融円滑化法の実質延長措置による貸出金滞留の長期化やマイナス金利を受け、既存融資の金利引き下げ要請や借り換え需要の増加から銀行間の新規融資獲得競争の激化は避けられないだろう。貸出金の増加率鈍化が顕著となるなかで貸出金利は下がり、どのように収益を生み出していくかが引き続き各行の課題となるが、マイナス金利や現在注目されている国内外の経済・企業情勢の影響は今期（2017 年 3 月期）にさらに顕著に表れる可能性が高く、各行の取り組み、収益状況を注視する必要がある。

### 【 内容に関する問い合わせ先 】

（株）帝国データバンク 東京支社 情報部 阿部・綴木

TEL 03-5919-9341 FAX 03-5919-9348

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。

当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。報道目的以外の利用につきましては、著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。